

静岡空港あす開港

構想から
四半世紀
初日は22便発着

富士山静岡空港が4日、開港する。県内への空港建設構想が1985年に具体化してから四半世紀。1900億円の巨費を投じた県政史上最大のプロジェクトがようやく結実し、本県と国内、世界の各地を直接結ぶ空の玄関が開かれる。



構想から四半世紀の年月を経て、空の玄関口があす開港する
＝2日午後、静岡空港（本社ヘリ「ジェリコ1号」から）



牧之原市と島田市にまたがる丘陵地に建設された静岡空港は、国内98番目の地方空港。本体部の面積190万㎡、2500㎡の滑走路を備えるが、空港西側の私有地に航空法の制限を超える高さの立ち木などが残っていた問題で、当初は300㎡短縮しての暫定運用となる。立ち木は地権者の合意を得て5月に伐採されたため、秋ごろまでに

は完全運用できる見通し。旅客ターミナルビルは鉄骨造り3階建て、延べ1万1400平方㎡。天気が良ければ、展望デッキから富士山を望める。無料利用できる駐車場2000台分を備える。開港時から国内2社、海外3社が就航し、札幌（新千歳）、福岡、沖縄（那覇）、韓国ソウル（仁川）との間で毎日計8往復、中国上海との間で週4往復を運航する。韓国2社の同時就航は地方空港では極めて異例で、全国の航空関係者から注目を集めた。

7月23日には静岡空港を拠点とするフジドリームエアラインズ（FDA）が就航し、小松に毎日2往復、熊本、鹿児島に各1往復を運航する。路線や便数の多さは「地方空港としては出色の出来」。

静岡新聞 平成21年（2009年）6月3日掲載記事

観光、産業 活性化に期待

旅客は開港が新たなビジネスチャンスにつながることを期待する。静鉄観光サービスの石井孝雄部長は「静岡県民はバスボートの取得率が低い。とにかく一度、静岡空港を利用してほしい」と訴える。気軽に海外に出掛けられることを実感すれば、必ず旅行需要の盛り上がりにつながることを確信しているという。

石川嘉延知事は静岡市内で5月31日に開いた開港記念祝賀会のあいさつで、「最後まで遠慮にさらされた空港らしいスタートになった」と表現した。用地取得の難航や立ち木問題による開港延期などの苦難を乗り越えて迎える開港が、直前になって新型インフ

新たな需要喚起課題

ルエンザの騒ぎで水を差されたためだ。石川知事は「いつまでもこうした状況が続くわけではない」と強調した。本来なら開港の祝賀相場で満席の便が相次いでもおかしくないが、中国東方航空が6月に運航を計画していた15往復のうち、6往復の欠航を決め、開港日から予定されていた台湾中からの連続チャーター便も秋に延期されるなど影響が広がっている。

県は日本航空の福岡線について、目標乗客率70%を下回った場合、運航支援金を支払う搭乗率保証を導入した。路線の維持・確保策という側面はあるが、財政負担につながらないよう、日航、県の連携による需要拡大が求められる。逆風下でも着実に利用実

富士山静岡空港のシンボルマーク

富士山の形



このシンボルマークは全国から公募した2,724点の中から選ばれました。はるか上空から見た富士山の形をデザインしたもので「富士山を眺めながら離陸できる」空港の特徴を端的に表現。そして八方に広がっていく形は、この空港が全国とアジアへ「出会いと交流」をひらいて、新しい時代に静岡県がさらに発展していくことを表現しています。



富士山静岡空港
Mt. Fuji Shizuoka Airport